

国語 第3学年 場面をくらべながら読み、感想を書こう

自分の学級に合わせて直すプロンプト

下の枠の文を全部そのままAI（ChatGPT・Claude・Gemini など）に貼り、質問に答えると、この単元の学習指導案が自分の学級に合わせて直ります。枠の後半には、直す対象の学習指導案が入っています。

あなたは小学校の国語の授業づくりを手伝う役です。この後に続く「ちいちゃんのかげおくり（第3学年）」の学習指導案を、私の学級に合わせて直してください。

先に、次の五つを一つずつ質問し、私の答えを待ってから次の質問に進んでください。まとめて聞かないでください。

一、学級の人数と、ペアやグループの組み方。

二、既習のこと。第1学年から第3学年までに読んだ物語と、「場面」「登場人物」「気持ち」をどこまで学習してきたか。戦争について学んだことがあるか。

三、この学級の子どもの実態。読むのが苦手な子、書くのが苦手な子、家族を亡くしたりつらい経験をしたりした子への配慮が要るか、などの実態。

四、この単元に使える時間数と、研究授業にする時間（何時間目か）。

五、使える道具。一人一台の端末があるか、大型画面があるか、紙だけか。

五つの答えがそろったら、学習指導案を次の決まりで直してください。

学習指導要領の文言、評価規準の文末（「～している」「～しようとしている」）は変えない。

教科書の本文や台詞は引用しない。場面と登場人物の呼び方だけを使い、叙述を入れる所は「先生が教科書から書き入れる」と書く。

教訓や決意を書かせる活動を足さない。

時間数は私が答えた数に合わせ、削ったり足したりした時間がどれかを一覧にする。

本時の展開は、人数と道具に合わせて、活動の形（一人・ペア・グループ・全体）と使う物を書き直す。

つまりきへの手当てと配慮は、私が答えた実態に合わせて具体的に書き直す。

直した所の一覧を最後に付け、どの答えを根拠に直したかを一行ずつ書く。

文章は先生がそのまま使える言い方にし、比喻や決まり文句を使わない。

出力は、学習指導案と同じ見出しの順で全文を出してください。

直す対象の学習指導案は、この後に続けて書きます。

———ここから直す対象の学習指導案———

第3学年 国語科学習指導案

1 単元名「場面をくらべながら読み、感想を書こう」 教材名「ちいちゃんのかげおくり（あまんきみこ）」

2 単元の目標

様子や行動、気持ちや性格を表す語句の量を増し、話や文章の中で使う（(1)オ）。登場人物の気持ちの変化や性格、情景について、場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像し、文章を読んで理解したことに基づいて感想をもつことができる（C(1)エ・オ）。感想を共有して一人一人の感じ方などに違いがあることに気づき、幅広く読書をし、思いや考えを伝え合おうとする（C(1)カ・学年の目標(3)）。

3 単元の評価規準

〔知識・技能〕①様子や行動、気持ちや性格を表す語句の量を増し、話や文章の中で使い、語彙を豊かにしている。（(1)オ）

〔思考・判断・表現〕①「読むこと」において、登場人物の気持ちの変化や性格、情景について、場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像している。（C(1)エ）

〔思考・判断・表現〕②「読むこと」において、文章を読んで理解したことに基づいて、感想や考えをもっている。（C(1)オ）

〔思考・判断・表現〕③「読むこと」において、文章を読んで感じたことや考えたことを共有し、一人一人の感じ方などに違いがあることに気付いている。（C(1)カ）

〔主体的に学習に取り組む態度〕①粘り強く、場面を比べて登場人物の様子や気持ちを想像し、学習課題に沿って、感じたことを感想の文章に書こうとしている。

4 指導上の考察

（１）単元について

本教材は、戦争の中で家族と離れ、一人になっていくちいちゃんの姿を描いた物語である。家族そろってかけおくりをする場面と、一人になったちいちゃんがかけおくりをする場面があり、同じ遊びが場面の移り変わりの中で違う意味をもつ。最後の場面は時代が移った後の様子で、それまでの場面と比べると受ける感じが大きく変わる。場面を比べ、比べて気付いたことを基に感想をもつ学習として、学習指導要領第3学年及び第4学年のC(1)オの、文章を読んで捉えたことを根拠に感想や考えをもつ学習と、C(1)エ「登場人物の気持ちの変化や性格、情景について、場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像すること」を働かせるのに向いている。様子や気持ちを表す言葉も多く、(1)オの語彙を豊かにする学習と結び付く。子どもは第1学年及び第2学年で、場面の様子に着目して登場人物の行動を想像する学習（〔第1学年及び第2学年〕C(1)エ）をしてきた。本単元はそれに場面と場面を比べる見方を加え、第4学年で気持ちの変化を場面の移り変わりと結び付けて想像する学習につながる。

（２）児童について（学級の実態を書く）

（３）指導について

指導に当たっては、次の三つを大切にする。まず、場面ごとに「いつ・どこで・だれが・どうした」と、ちいちゃんの様子や気持ちを表す言葉を同じ形の表に書きためておき、比べる時にその表を使う。次に、比べる時は「同じ所」と「違う所」の両方を挙げさせ、違いを確かめてから感想を言う順にする（C(1)オ）。感想は「かわいそう」の一語で終わらせず、どの場面とどの場面を比べて、どの言葉からそう感じたのかを添えさせる。そして、戦争で家族と離れ、命を失う話なので、家族を亡くした子や災害などでつらい経験をした子がいなかを事前に確かめ、感想の発表を無理に求めない。教訓や決意を書かせることを目的にしない。単元の終わりに書く感想文は、比べた場面・根拠の言葉・感じたことがそろっている物を「おおむね満足できる」状況、場面の移り変わりと結び付けて、感じたことの原因を自分の言葉で書いている物を「十分満足できる」状況の目安にする。

5 指導と評価の計画（全10時間）

第1次 第1時：○範読を聞き、初めの感想（心に残ったこと・不思議に思ったこと）を書く。 評価：態①（初めの感想）

第1次 第2時：○物語を場面に分け、場面ごとに「いつ・どこで・だれが・どうした」を表にまとめる。○初めの感想を読み合い、単元の問い「二つのかけおくりを比べると、どんなことを感じるか」と学習の進め方を決める。

第2次 第3時：○家族でかけおくりをする場面を読み、様子や気持ちを表す言葉に線を引いて、場面の表に書く。 評価：知①（ノート）

第2次 第4時：○空襲の夜にお母さんたちとはぐれる場面を読み、ちいちゃんの行動と気持ちを想像する。 評価：思①（ノート）

第2次 第5時：○焼けた家でお母さんたちを待つ場面を読み、ちいちゃんの様子と気持ちを想像する。

第2次 第6時：○一人でかけおくりをする場面を読み、ちいちゃんの様子と気持ちの移り変わりを想像する。 評価：思①（ノート）

第2次 第7時（本時）：○家族でかけおくりをする場面と、一人でかけおくりをする場面を比べ、同じ所と違う所から感じたことを書く。 評価：思②（ワークシート）

第2次 第8時：○時代が移った後の場面を読み、それまでの場面と比べて感じたことを書く。 評価：思②（ノート）

第3次 第9時：○いちばん心に残った比べ方を選び、「比べた場面→根拠の言葉→感じたこと」の順で感想文を書く。 評価：思②（感想文） 態①（感想文の見直し）

第3次 第10時：○感想文を読み合い、同じ所と違う所に付箋を貼って、感じ方の違いを話し合う。○学習を振り返る。あまんきみこのほかの作品を紹介し、並行読書が続ける。 評価：思③（付箋・発言） 態①（振り返り）

6 本時の指導 (7/10)

(1) 本時の目標

家族でかげおくりをする場面と、一人でかげおくりをする場面を比べ、同じ所と違う所を叙述を基に見付け、それを基に感想をもつことができる。(C(1)オ)

(2) 学習過程

【導入】

学習活動：1 前の時間までの場面の表で、ちいちゃんの様子が場面ごとにどう変わってきたかを確認する。

2 本時の問いをつかむ。

○「物語の中で、かげおくりをしたのはどの場面でしたか」

【めあて】二つのかげおくりをくらべて、感じたことを書こう。

予想される児童の反応：・はじめの方で、家族みんなでかげおくりをした。

・終わりの方で、ちいちゃんが一人でかげおくりをした。

指導上の留意点：・場面の表を黒板に貼り、かげおくりの出る場面印を付けておく。

・この時間は、二つの場面を比べてから感想を書くことを先に伝える。

【展開】

学習活動：3 一人で、二つのかげおくりの様子をワークシートの表に書き写す（だれと・いつ・様子・聞こえた声・空にうつったかげ）。

4 同じ所と違う所を見付ける。

○「二つのかげおくりで、同じ所はどこですか。違う所はどこですか」

5 ペアで見付けたことを伝え合い、全体で表にまとめる。

6 違いから感じたことを考える。

○「違いに気付いて、どんなことを感じましたか。どの言葉からそう感じましたか」

予想される児童の反応：・どちらも、数を数えてかげおくりをしている。

・どちらも、空に白いかげがうつっている。

・どちらも、家族の声が出てくる。

・はじめは家族がそろっていたけれど、後の方はちいちゃん一人。

・後の方の家族の声は、そこにはいない家族の声。

・はじめはうれしそうだけれど、後の方はさびしくて悲しい。

・同じ遊びなのに、こんなに違うのがつらい。

・一人でも家族の声が聞こえて、ちいちゃんは少しうれしかったのかもしれない。

指導上の留意点：・書き写す叙述は、使う教科書から先生がワークシートに書き入れておき、子どもは該当する所に線を引いてもよいことにする。

・同じ所が見付からない子には、表の「だれと」「聞こえた声」の行を指して、二つを並べて見させる。

・「かわいそう」の一語で終わる子には「どの言葉から」と返す。

・家族の声が聞こえたことの受け取り方が子どもによって違う時は、どちらかに決めず、叙述を根拠に両方を認める。

・読むのが苦手な子には、二つの場面だけの拡大本文（ルビ付き）を渡す。

・早く終わった子には、二つのかげおくりの間に、ちいちゃんのまわりの人がどう変わったかを場面の表から確かめさせる。

【まとめ】

学習活動：7 比べて感じたことを書く。

(型)「家族とのかげおくりでは…。ちいちゃんだけのかげおくりでは…。くらべて、わたしは…と感じた。それは、…という言葉からです」

8 二、三人が読み上げ、感じ方の違いを確認する。

9 振り返りを書く。

指導上の留意点：・感想の発表は希望者からにし、書いた物で受け止める。

・振り返りは「比べて気付いたこと」と「友達の感想を聞いて思ったこと」の二つで書かせる。

・次の時間は、最後の場面をそれまでの場面と比べることを伝える。

評価：思② 二つのかけおくりの場面を比べて捉えたことを根拠に、感想をもっている。(ワークシート)

(3) 板書計画(縦書き・右から左へ)

縦書きで右から。右端に日付・題名・めあて。その左に場面の表を縮めて貼り、かけおくりの出てくる場面に印。中ほどに二つのかけおくりを比べる表(上の段に家族でのかけおくり、下の段に一人でのかけおくり。列は右から、だれと・いつ・様子・聞こえた声・空にうつったかげ)。同じ所は青、違う所は赤で囲む。その左に、子どもの感想を、根拠にした列と線で結んで並べる。左端に感想の文の型と、振り返りの観点二つ。

AIが作成した授業案です。授業での検証は未実施です。自校の教材・年間計画・学級の実態に合わせて確認してください。



Threads「三重でAI使うなら」(@mie_ai_katsuyo)

https://www.threads.com/@mie_ai_katsuyo

LINEオープンチャット
みえ先生ラボ

